

うっしっしいー情報2013

10月市



豊岡農業改良普及センター

10月9日に行われましたセリ市全体の平均価格は、去勢が54万8千円、雌が46万6千円でした。

普及センター調べ（税込価格）

（本人落としも含むため、JA公表数値とは異なります）

地域	去勢			雌			総計	
	頭数	DG	平均価格	頭数	DG	平均価格	頭数	平均価格
宍粟・佐用	16	1.042	525,525	6	0.895	445,550	22	503,714
篠山	4	0.870	472,500	4	0.819	423,938	8	448,219
丹波	25	1.009	542,556	18	0.907	450,683	43	504,098
朝来	8	0.959	561,488	5	0.783	422,520	13	508,038
播磨	12	1.002	537,163	5	0.865	426,510	17	504,618
美方郡	95	0.981	558,302	76	0.873	486,523	171	526,400
豊岡	26	1.024	532,390	16	0.897	438,769	42	496,725
養父	29	1.018	564,103	27	0.883	460,211	56	514,013
摂津・神戸	2	0.984	541,275	1	0.789	458,850	3	513,800
県北C	10	0.958	528,675	-	-	-	10	528,675
市場全体	227	0.996	548,058	158	0.877	465,868	385	514,328

10月市種雄牛ランキング

順位	種雄牛	去勢			雌			総計	
		頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均価格
1	芳悠土井	48	1.040	579,250	39	0.879	511,700	87	548,969
2	丸宮土井	26	0.989	566,637	17	0.844	470,709	43	528,712
	総計	207	0.997	545,883	146	0.875	464,431	353	512,195
3	丸富士井	31	0.947	539,802	14	0.831	443,025	45	509,693
4	芳山土井	31	0.980	538,955	19	0.886	426,963	50	496,398
5	福芳土井	29	1.042	522,321	28	0.914	464,250	57	493,795
6	照一土井	9	0.982	553,467	12	0.853	448,700	21	493,600
7	照忠土井	8	0.968	529,856	4	0.832	399,788	12	486,500
8	千代藤土井	8	1.043	523,294	7	0.860	430,650	15	480,060

価格は税込み（10頭以上の出荷があった種雄牛のみ記載、間接検定牛は除く）
 ランキング種雄牛の育種価

	種雄牛	枝肉重量	ロース芯面積	バラの厚さ	皮下脂肪厚	歩留	脂肪交雑
1	芳悠土井	A++ → A+	A	A+	B	A	A+++
2	丸宮土井	B	A → B	A+	A++	A++ → A+	A++
3	丸富士井	A	A++	C	C	A	A++
4	芳山土井	A++	A++	A+++	D	A+	A+ → A+++
5	福芳土井	A++	B	A++	C	C	A+
6	照一土井	B → C	A++	C	A+	A++	A++
7	照忠土井	B	A++	B	A+	A++	A+
8	千代藤土井	A → B	A++	D	A	A+	A+++

北部農業技術センター提供（育種価評価は平成25年7月現在）

出荷日齢と出荷体重について(去勢子牛編)

出荷時期の決定はどのように決めていますか？出荷子牛の日齢や、発育具合、マヤの関係など色々と加味されていると思います。そこで今回は、去勢子牛の出荷日齢と出荷体重に焦点を絞って検討してみたいと思います。

1 集計条件

期 間：平成23年10月市～平成25年9月市（2年間）

頭 数：去勢子牛3,547頭

データ：普及センター調べのため本人落札も含む

2 種雄牛の影響について

出荷子牛の発育(日齢体重)に直接的に影響を与える要因として、種雄牛が考えられます。そこで出荷時における日齢体重別の期待育種価割合を見てみました(表1)。その結果、日齢体重が1.0を超える発育の良い子牛は、期待育種価A評価の種雄牛割合が70%以上となっています。しかし、発育が今ひとつの子牛では50%程度となっています。半分は父牛の影響であることから種雄牛の割合が市場における日齢体重や出荷日齢に影響を与えていると考えられるでしょう。表2では集計期間における種雄牛割合を表しています。出荷日齢と出荷体重を考える上での前提として参考して下さい。

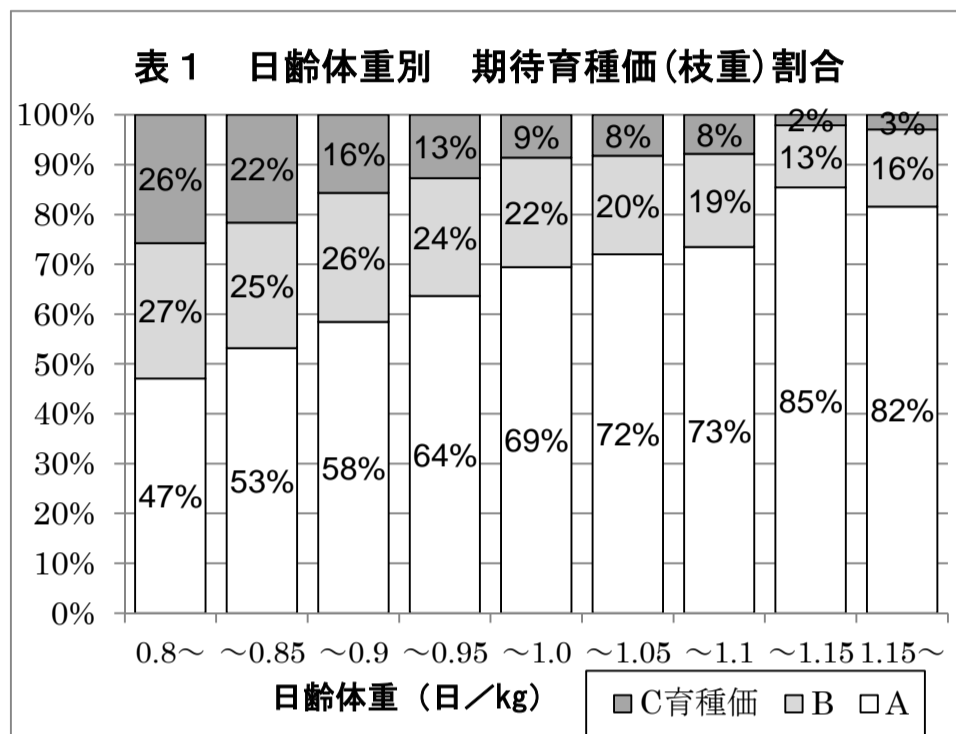


表2 集計期間中の種雄牛割合

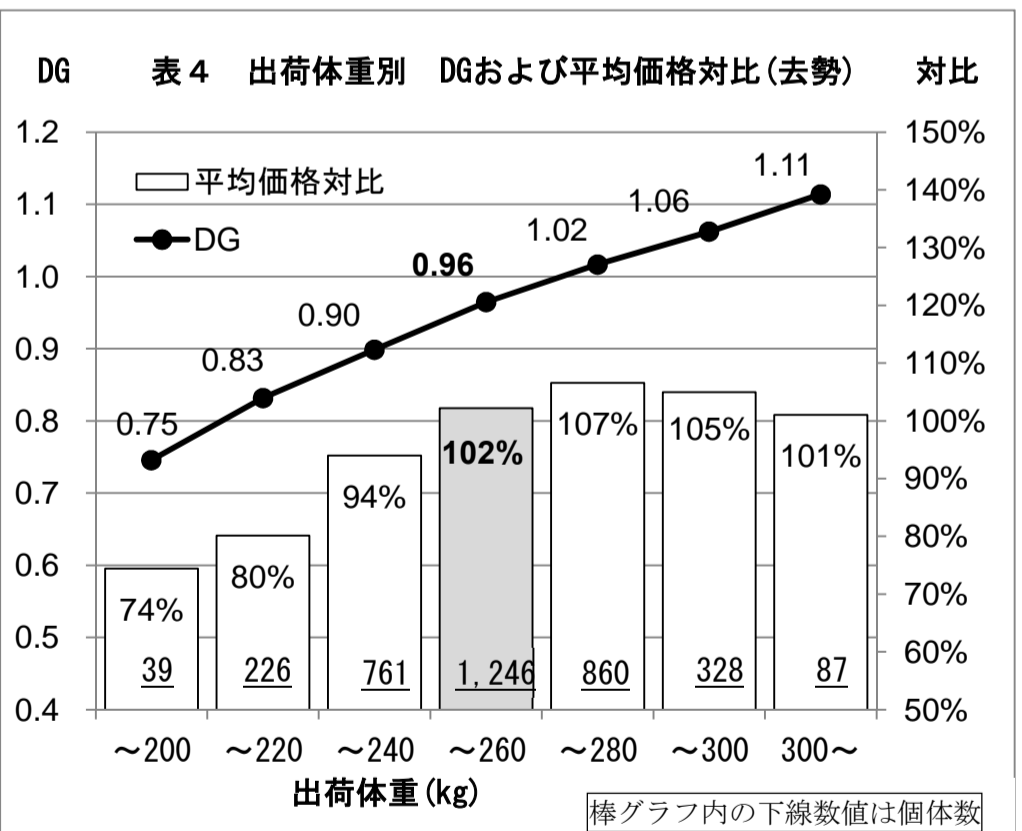
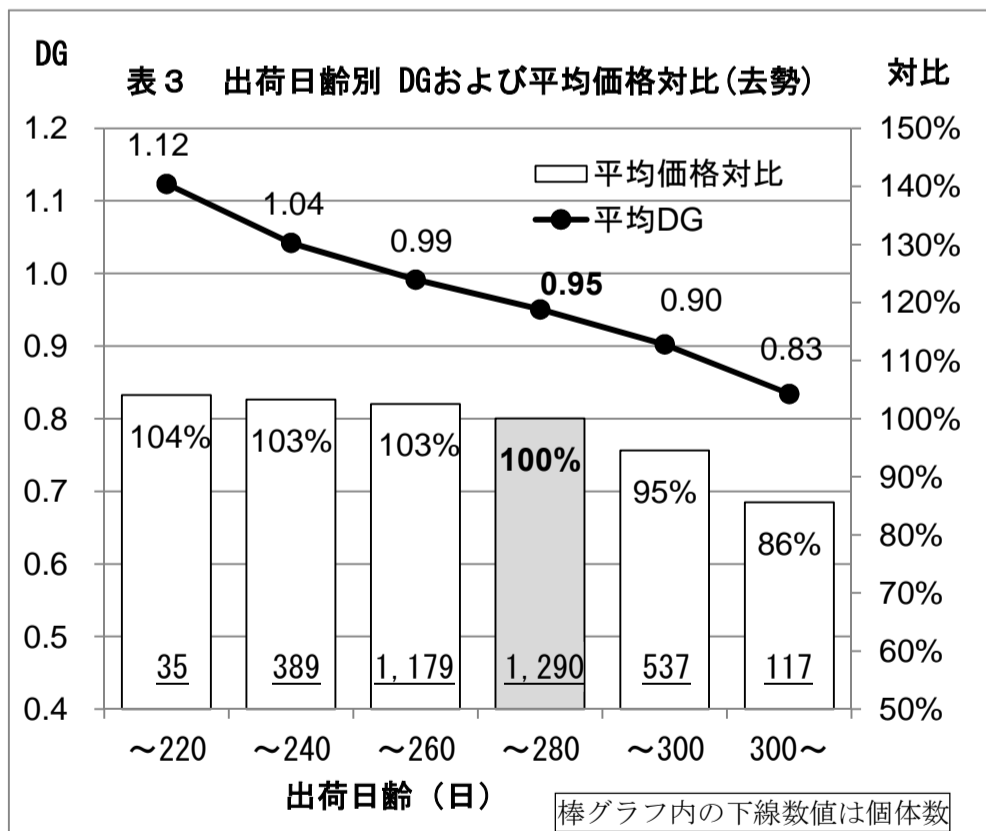
種雄牛	頭数割合	育種価 (枝重)
芳山土井	20.7%	A++ 54.627
福芳土井	18.5%	A++ 56.014
菊西土井	12.0%	A+ 38.700
丸宮土井	10.6%	B 17.752
照一土井	8.1%	C 12.807
丸富士井	5.3%	A 27.357
照忠土井	5.0%	B 19.221
丸福土井	3.0%	D -39.450
その他	16.8%	-

3 出荷日齢別および出荷体重別 DG と平均価格対比について

○出荷日齢が280日未満の個体では、平均してDGが0.95程度以上と良好な発育と安定した価格が確保されています(表3)。

○出荷体重で見ると240kg以下の個体では、極端に価格への影響が見られます(表4)。

○DGは出荷日齢が進むと低下し、出荷体重が大きくと上昇しています。つまり日齢が進んだ出荷は、発育が悪いからです。



ポイント

☆去勢の出荷目標は280日齢までに！ 260日齢なら文句なし。

☆出荷体重は240kgを確保！

～語句説明～

○期待育種価：種雄牛(父牛)と母牛の育種価を平均した育種価

○平均DG：出荷体重÷出荷日齢…例えば10月市に250kgの去勢を260日齢で出荷した場合DGは、0.962(250kg÷260日)になります。

○平均価格対比：販売価格÷市各の平均価格×100%…例えば10月市の販売価格が50万円で、その市の去勢子牛の平均価格が40万円の場合、平均価格対比は、125%(50万円÷40万円×100)になります。